
少女と魔界のエンブレム

夜桜 冬樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少女と魔界のエンブレム

【Nコード】

N7008Z

【作者名】

夜桜 冬樹

【あらすじ】

俺、城崎剣哉はあの時見とれてしまった。無邪気さも忘れた小学一年生の時、いつもどおりに電車で塾に向かっている途中に、一人の少女と出会う。本当に綺麗な子で、ずっと会いたいと思ってしまい、勉強なんて手もつかなかった。それから十年後。その少女が転校生としてやってきて、いきなりパートナーになってくれたとか、魔界を救えたとか……信じられないことがたくさん降り注ぐ、学園魔界召喚ファンタジー

俺、城崎剣哉きりきけんやはあの時見とれてしまった。

塾に行く途中の出来事だった。

俺は中学受験に向けて、進学専門の塾に通っていた。いつてもあの時はまだ小学1年生くらいだ。親父が大学教授で母親が弁護士
の俺は、なんと少しでも公務員などの安定した将来が要求された。

だからこんなにも早くに将来を見据えた人生を過ごしていた。そう、無邪気な小学生ではなかった。

塾は、俺が住んでいる町から離れたところにある。そのため、毎日塾に行く交通手段は電車だった。

すでに俺は人生に嫌気がさしていた。

親の言いなりで進学塾に行き、ちよつとでも難しい問題が解けなかったら徹夜で勉強をさせられる。

そのためか、学校でも勉強ばかりしていたし、1年生だった俺には、1年生の問題が楽勝だった。進学塾ではもつと難しい勉強をしていたからだと思う。簡単な足し算や引き算をしていただけだった。何もかも問題が解ける俺は、あまりいい目で見られてなかった。教師にはいい目で見られていたが、友達、同級生にとっては目障りだろう。多分みんなは自分たちが見下されているみたいで嫌だったのだと思う。

だから俺の中で味方はいなかった。友達もいないし、親は勉強させるだけで、俺として見てくれない。

あの時も俺は普段と変わらずに塾へ行った。いや、行く予定だった。

俺はうつむいて座っていた。そこで、あとのくらいで塾に近い駅に着くか確認しようと顔を上げたときだった。

向かい側の席に座っていた少女に見とれてしまった。

ピンク色というか、ラベンダー、ブルーベリーに近い、薄紅色の

髪の毛、まっすぐに長くのびた髪型。そして真っ白な肌、少したれ目で綺麗な青色の目。

彼女が外を見ている姿に見入ってしまった。夕焼けに染まった外をずっと見ている彼女を、窓がその彼女を映し出す。またそれも一段と可愛く見えた。

本当に可愛くて、でも綺麗で、美少女というのが正しい、そんな子だった。

彼女は俺が降りる駅の3つくらい前の駅で降りた。ずっと見入っていた俺はつられてその駅で降りてしまった。

その駅は結構人気の多い駅で、しばらくすると彼女を見失ってしまった。

そこでやっと気づいたんだ。

俺、遅刻しないか……？

いつも乗る電車は塾の時間にぴったり合う時間になっている。その日も、もちろんその電車に乗ってきた。

こんなのを知られたら親になんて言われるか……

はつきり言ってしまうえばストーカーをしたから塾に遅れた。塾に遅れている上に犯罪をした。しかも変態がするような……。

なんだか行く気がなくなった俺は、そのまま塾をさぼった。駅で買った本をホームで読み、いつも帰りに乗る電車を待っていた。

もちろん親には叱られた。ストーカーしてたことは俺しか知らないが、塾に来てないことは塾側が電話をすればすぐに伝わる。

もちろんのこと、その日は徹夜で勉強をさせられた。

けど、何1つ内容が頭に入ってこなかった。

ずっとあの少女の事を考えてしまう。

次の日も塾に電車で行った。

ちよつとだけ、また逢えるかな、といった希望を抱いて行った。でも逢えなかった。当たり前といったら当たり前なのだが。

違う車両に乗っているのかな、と思い、彼女がこの前降りた駅で、

駅の様子を見ていたが、彼女はいなかった。

たまたま昨日に乗っていただけなのだ、と思うと、なんだか悲しくなってきた。

けど、それから逢いたい気持ちは変わらなかった。

逢いたい。

逢いたい。

逢いたい。

それだけしか心になかった。

もちろん、その後も会えることはなかった。

でも俺は希望を捨てなかった。

逢いたいという気もちが強すぎたのだ。

そして、それが初めての恋で、一目惚れだったのだ……

001 prologue

出会った少女（後書き）

どうも、こんにちは&初めまして、夜桜冬樹です。（v a z）

和の水氷輪やU B Kが完結していないにも関わらず、投稿してしまいました。いやゝ、あの……少魔界（作品タイトルの略）も書かなきゃいけないんだぞ！ という感じがあつたほうが他作品も進みやすいかと思ひましてね。

初めての一人称主体なのでうまく出来るか分かりませんが、よろしく願ひします。

なお、この作品は短期連載と考えているので、大体二十話くらいかと。

そして、和の水氷輪とU B Kのどちらかが完結するまでは一ヶ月更新の超亀更新でやることになりますが、ご了承ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7008z/>

少女と魔界のエンブレム

2012年1月10日21時52分発行